

1. 単元名 これからの食料生産

2. 単元の目標

- 我が国の農業や水産業における食料生産について、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめる技能が身につくようにする。
(知識・技能)
- 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産にかかわる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現する力を育てるようにする。
(思考力・判断力・表現力等)
- 食料生産の概要や食料生産が国民生活に果たす役割について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、食料生産と国民生活を関連づけて考え、問いを設けて調べることができるようにする。また、我が国のこれからの食料生産について関心を持ち、考えようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本小単元「これからの食料生産」では、我が国の食料生産には、働く人の減少や環境への影響、安全性、低自給率などの問題点があることを理解し安心・安全な食料確保のための食料生産のあり方を考えようとすることをねらいとしている。

そこで、まずは児童に身近な学校給食に目を向けさせる。好きな学校給食のメニューを選び、自分の選んだメニューの食材を食料自給率に照らし合わせると、そのほとんどが輸入食材になってしまうことに気づかせる。そして、食料自給率が低いことを押さえるようにする。また、学校給食はそんな中で地産地消にこだわっていることを伝え、それはなぜなのかを資料から読み解いていく。そして、我が国の食料生産が抱える様々な課題、それに向かって取り組んでいることについて学習していく。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期に行った「産地マップ作り」のときにスーパーで売られている食材の中には、外国産が多く含まれていることに気づいている。外国産が多いことが問題だと思っている児童は少なく、一部の児童が「よくないんじゃないか。」と発言していた。そこで、本単元では改めて外国産が多い（輸入に頼っており、食料自給率が低い）ことに気づかせ、その上でどのような問題があるのか資料などを活用して考えさせたい。また、輸入によって自分たちの食生活が豊かになっている面があることも捉えさせたい。

(3) 指導観

本小単元は、これまでの食料生産のまとめとしても位置付けられる。食料の安定確保、食料の輸入の増加という問題は、国内で食料生産を続ける人々の姿を抜きにしては考えられない。米づくりや水産業の学習とも結びつけることで、これらの問題をより具体的に、多面的に考えることができるはずである。

(4) ESDとの関連

○この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・相互性・・・国同士につながりがあり、食料の行き来があるから食料が確保できる。
- ・有限性・・・大量生産、大量消費の文化や、国による経済格差や気候変動等により食糧危機が起こる。
- ・責任性・・・地産地消、未来に向けた食料生産、食べ物を大切にすることは自分たちの使命である。

○この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（Critical Thinking）

輸入にたよることにはいいこともあるが、課題となる部分も大きい。

- ・コミュニケーションを行う力

自分たちのできることを話し合うことで、自分事としてとらえ、自分にできることを考えるとともに、きちんと思いを他者と伝えあうことができる。

○この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・自然環境、生態系の保全を重視する

今必要な食料生産を地球規模で考えることで、環境保全や自分たちの今の暮らし方を見直すことにつながる。

- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

世界には食べ物に恵まれない国があることを知り、食料確保や食品ロスの重要性について改めて感じることができる。

○関連するSDGs

- 2 飢餓の解消
- 1 2 生産と消費
- 1 3 気候変動
- 1 4 海洋資源
- 1 5 陸上資源
- 1 7 グローバル・パートナーシップ

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 食料の安定確保や安全のために食料自給率を高めていくことや食料生産を進めていくことの大切さを理解している。 ② 食料生産を取り巻く現状と課題、解決策について、写真やグラフなどの資料を活用して調べ、考えることができる。	① 我が国のように食料の多くを輸入に頼っていることに問題意識を持ち、安全で環境に良い食料生産を進めていくことの大切さについて考えることができる。 ② 自分たちにできることについて考えたことを友だちに伝えたり、表現したりしている。	① 食料生産を取り巻く現状と課題について関心を持ち、これからの食料生産について意欲的に調べたり考えたりすることができる。

5. 単元の指導計画（全7時間）

次	○学習活動	○学習への支援	△評価 ・備考
1	<p>1 ○産地マップから外国産が多いことを思い出す。</p> <p>○自分だけの給食メニューを作り、その給食に用いられている食材の自給率を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国産が多いんだな。 	<p>○主食・主菜・副菜・デザートで好きなものを選ぶようにする。材料がわからない時は、使われている原材料を調べるように助言する。</p> <p>○外国産（輸入）が多いことに気づけるようにする。</p>	△ウ1（主体的）
2	<p>2 ○食料自給率について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は食料をたくさん輸入しているんだな。 ・輸入のおかげで食生活が豊かになっているんだな。 <p>3 ○輸入に頼ることの問題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もしも輸入できなくなったら・・・ ・日本でも食料をもっと作った方がいいのかな。 	<p>○輸入のおかげで食料が安く手に入り、食生活が豊かになったことに気づかせる。</p> <p>○食生活の変化も影響していることに気づけるようにする。</p> <p>○輸入に頼ることにはよくない面もあることに気づくようにする。</p> <p>→日本の食料生産にも問題はあ</p>	△ア1、2（知・技）
3	<p>4 ○国内の食料のよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消ができるんだな。 ・無農薬で作られている野菜もあるな。 <p>5 ○農家の人に来てもらい、話を聞いたり、質問したりする。</p>	<p>○国内での消費を増やすために効率よく生産する取組や安全・安心や高品質なことを知ってもらう取組があることに気づけるようにする。</p> <p>○多くの人に買ってもらうために、どのような取組をしているのかを知る。</p> <p>○作っている人の思いやその苦勞に気づく。</p> <p>○農業の抱える課題を知る。</p>	△ア1（知・技） △ウ1（主体的）

	<p>6 ○水産業の課題についても知り、それらの課題に対する取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い値段で売る工夫があるんだな。 ・魚の量が減らないような工夫があるな。 増やす工夫もあるな。 	<p>○農業の問題同様に、人口、環境、食生活等様々な問題を抱えていることに気づけるようにする。</p> <p>○働き手の高齢化や資産資源の減少の中でできることはないか考えさせる。</p>	<p>△イ2 (思判表)</p>
<p>4</p>	<p>7 ○日本の食料生産が発展していくにはどうすればよいか、今・将来の自分にできることを考える。班で交流しまとめ、発表する。</p>	<p>○輸入が自分たちの生活に必要ということを確認し、その上でできることはないか考えさせる。</p> <p>○生産者や消費者の立場、環境のことなど様々な視点から考えられるようにする。</p>	<p>△イ2 (思判表)</p>